

真宗大谷派 存明寺通信

No.232

2026年(仏歴2557年)7月4日

あと4か月となりました 2026年(令和8年)11月2日(月)14時～・3日(火)12時～

存明寺慶讃法要ぞんみょうじきょうさんほうよう(宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年・烏山移転百年)しゅうそしんらんしょうにんごたんじょう りっきょうかいしゅう からすやまいてんをごんしゅう厳修

特別ゲスト:一楽真氏いちらく まこと(大谷大学)・ヒナタカコ氏ひなたかこ(シンガーソングライター・僧侶)

■存明寺慶讃法要 2026

11月2日(月)

13時 受付・開会

14時 音楽法要

15時 記念講演(一楽真氏)

「仏教は何を教えているのか」

16時 慶讃コンサート(ヒナタカコ氏)

※終了後慶讃法要のゆうべ(交流会)

11月3日(火)

12時 受付・お斎(精進料理)・開会

13時 音楽法要

14時 記念講演(一楽真氏)

「教えとの出会いが開く世界」

15時 慶讃コンサート(ヒナタカコ氏)

※終了後「祝賀会」があります。

主催 真宗大谷派 存明寺



<https://zonmyoji.jp>

真宗大谷派の機関紙『同朋新聞』6月号に、娘・酒井あゆみの文章が、同じく真宗大谷派の機関紙『真宗』6月号に息子・酒井大樹の文章がそれぞれ掲載されました。次世代の人々が活躍する時代になったようです。ここに転載します。思わずご先祖さまに報告したい気分になりました(住職)

“ひとりじゃない”と伝えたい



自坊では「子ども会」を開催しています。かつては参加者が100名を超えていましたが、一人ひとりを大切にしたいとの住職の願いから、現在は20名ほどの会員制にしています。しかし当初の私は、もっと多くの子どもたちに来てほしいと考えていました。

そんなある日、お寺に2人の兄弟が遊びに来るようになりました。チャイムが鳴ると、「あゆみ、いるー?」と私を呼ぶ明るい声が響き、毎日楽しく過ごしていました。ところが1年後、お寺のお金がなくなっていることに気がつきました。尋ねてみると、泣きながらこう話してくれました。

「盗むのは病気だと言われた…」、「親に叩かれるけど、周りの人には言えなかった…」
正直、最初は裏切られたような悲しみと怒りが込み上げてきました。しかし、彼らなりに「助けて」と、伝えようとしていたのかもしれませんが。もし盗みが発覚していなければ、彼らが抱える心の闇に気づけなかっただろうと思います。その後、ご両親との話し合いを重ねた結果、今もお寺に来てくれています。彼らの他にも、ふと相談をしてくれる子もいます。いじめや不登校、親の離婚など事情はさまざまですが、皆どこかで孤独を感じているようです。



私自身も昔、悩んだ時期がありました。その時笑顔で「あゆちゃん、おいで」と声をかけてくれた祖父母やご門徒さんの優しい表情を、今でもよく思い出します。「私を見てくれている」と感じられたことが、大きな心の支えになりました。今度は私がその温もりを子どもたちに贈りたいと思っています。

最近は毎日連絡を取ったり、遊びに来てくれる一対一の関係が増えてきました。「ひとりからはじめる子ども会」という言葉がありますが、これも一つの子ども会のかたちではないかと感じます。出遇った一人ひとりの声にしっかりと耳を傾け、向き合うことを何より大切にしたいと思えます。そして、「ひとりじゃない」と心から感じられるような、温かいつながりが広がっていくことを願っています。

青少幼年センター スタッフ 酒井 あゆみ
(東京教区 存明寺)

青少幼年センターとは?

青少幼年センターは、青少幼年が抱える悩みや問題を受けとめ、仏さまの教えに基づいて青少幼年教化の支援を行っています。

詳しくはこちら



副住職の酒井大樹(東京教区通信員)が書いた「今月のお寺」の記事です。『真宗』誌6月号より。

今月のお寺

236

智 廣 寺

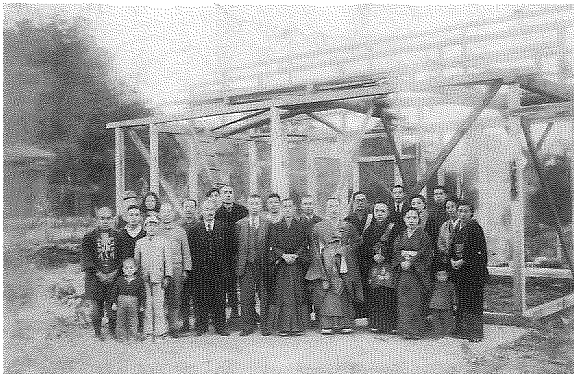
(東京教区横浜組)

神奈川県横浜市鶴見区佃野町三八番二六号

住職 橋本 至

説教所から始まった「地域のお寺」

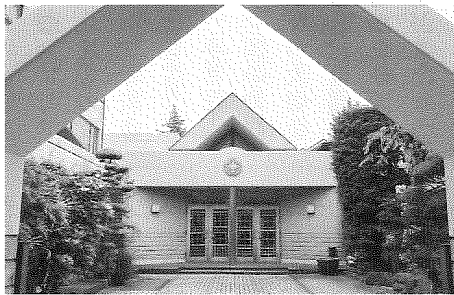
横浜市鶴見区にある昭和レトロな商店街「レアールつくの」を抜けた住宅街の中に智廣寺はある。



空襲から再建した智廣寺本堂

智廣寺の歴史を訪ねると、その淵源は一九二四(大正十三)年に真宗山元派浄徳寺(福井県)の橋本智證さんが開教のため上京し、前身となる真宗山元派佃野説教場を開かれたことに遡る。後に、智證さんの息子の廣さんが主管者とな

り大谷派に転派したが、一九四五(昭和二十)年四月十六日、空襲により建物が全焼し、当時の坊守、坊守の実母、廣さんの長男・次男が亡くなってしまふ。その二年後に、真宗大谷派智廣寺の寺号を許可され、廣さんが初代住職に就任し、仮本堂を再建。内陣を含めて十二畳という限られた場ではあったが、長年にわたって教化活動をされてきた。



智廣寺外観

その後、前住職の正博さんが建物を新築し、

至さんが住職を継職されて現在に至っている。

友達を報恩講に集めてみるのはどうだろうかと考え、始められたものだ。今では参加された子どもたちと「正信偈」のお勤めをして、恒例のカレーやビンゴ大会を楽しみ、祭りのように賑わっている。正博さんは、「オウム事件があり、ある信者が「日本のお寺は、単なる風景に過ぎなかった」と言ったことが重い言葉だった。その言葉からお寺の意味が問われ、私にとっては子ども会を続けていくエネルギーになった」と話された。



住職の至さん(右)と前住職の正博さん(左)

やっつけて、地域の子どもたちが次々と集まってくる。

また、「定例法話会」として毎月教区内から先生をお招きし、仏法聴聞の場を開いている。そこには道俗ともに有縁の方々が集い、会終了後にはお茶会や懇親会の場で人びとが語り合う姿がとても印象的だった。コロナ下でも、「正信偈」を「嘆仏偈」にしたり、合掌だけにするなど声を出さないように形を変えて続けてきた。至さんは「私が自分で作ったわけではないので、やっぱり住職になったときにこれを無くしたくはない、続けたい。やめるのは簡単だけど、やめてしまったら次やるのは絶対に無理だろうという思いでやっている」と話された。

最後に至さんから、「智廣寺は立派な歴史や宝物があるお寺ではないので、できるだけ親しみやすい「地域のお寺」としてあり続けたい」とお話しいただいた。

(東京教区通信員・酒井大樹)

お寺のひろば 2026 (令和8) 年

2026 (令和8) 年 お寺のひろば

- 9月12日 (土) 14時 樹心の会
音楽法要と「私の出遇った大切な一言」
- 9月18日 (金) 13時 おそうじの日
慶讃法要に向けて庭木の剪定と清掃
- 9月23日 (水) 11時と13時 秋のお彼岸法要
法要とお話 (住職と門徒有志) があります。
- 9月26日 (土) 14時 グリーフケアのつどい
大切な方を亡くした人々のつどい
- 10月10日 (土) 14時 樹心の会
音楽法要と「私の出遇った大切な一言」
- 10月19日 (月) 13時 庭木の剪定と清掃
- 10月20日 (火) 13時 庭木の剪定と清掃 (予備)
- 10月23日 (金) 10時 おみがきのつどい
仏具のおみがきと清掃のつどい
- 11月2日 (月) 14時 存明寺慶讃法要
3日 (火) 12時 存明寺慶讃法要
講師：一楽真氏 (大谷大学)
ヒナタカコ氏 (歌手)
- 11月14日 (土) 14時 樹心の会
存明寺慶讃法要を振り返って①
- 12月12日 (土) 14時 樹心の会
存明寺慶讃法要を振り返って②
- 12月19日 (土) 14時 グリーフケアのつどい
大切な方を亡くした人々のつどい
- 1月1日 (元日) 10時 修正会

※真宗聖典輪読会・こども食堂・こども会・子育てサロンも定期的に活動中です。

永代経法要写真館 (5月3日)

ゲスト: 近藤龍磨氏・天白真央氏



写真撮影: 高橋昭彦氏 (世話人)・吉山浩文氏 (世話人)

【あしがき】

▼「セミは夏を知らない」この言葉の原点は経典です。地中で過ごすセミは、紅葉や雪の風景を知りません。そんなセミが、自分の鳴いている季節を、どうして夏だと知ることが出来るようか、ということです。セミとは私のこと。私は私を知っているでしょう。自分のことをちゃんと知る宗教、それが仏教です。

▼いよいよ慶讃法要がやってきます。法要は二日間なのですが、その二日間のためにご門徒と共に準備を積み重ねています。大事にしたいことは、準備を楽しむ！

▼法要テーマは「人と生まれて教えに出遇う」です。人と生まれた私が、時には苦しみや悲しみに出遇う。しかしそのことを縁として、人間を照らす教えに出遇うのです。一人ひとりにとってそのような法要になれば、と願っています。▼是非慶讃法要に、両日ともご参詣くださいませ。 住職 義

東京都世田谷区北鳥山4-15-1
真宗大谷派 存明寺 (ぞんみんやうじ)
住職 酒井義一 (しうべいぎいち) (釋諦信)
TEL 03-3300-5057
FAX 03-3300-5880
E-mail : sakai@zommyoji.jp